

第4回釧路市教育推進基本計画策定委員会

日 時：令和5年1月31日（火）14：00～14：45

場 所：釧路市生涯学習センターまなぼつと幣舞 特別会議室 801

出席者：別添座席表のとおり

関係資料：資料1 釧路市教育推進基本計画 最終案

資料2 計画素案からの変更内容

1. 開 会

2. 議 事

(1) 釧路市教育推進基本計画の最終案について

事務局より、資料1及び資料2を使用し、最終案の内容（計画素案からの変更内容）について説明。

⇒⇒ 以下、各委員からの意見・質問等。

□委員長

ただいまの事務局からの説明について、委員の皆様からご意見ご質問を頂戴したいと思う。特に、11PのICT等を活用した箇所と、16Pの特別の教科道徳に関する箇所、18P多様な体験活動の推進、20Pいじめ防止等への取組の推進については、12月議会における議論を受けて修正されているということなので、このあたりを中心にご意見をいただければと思う。

◇委 員

「計画的に」という文言を「年1回以上」とか、回数で具体的に提示されたことで、より明確化されたと学校としては受け止めた。逆に、これに近づくようにしなければならないという想いをひしひしと持ったところである。

◇委 員

資料2の13頁の成果指標項目の変更箇所で、「主体的な進路選択に向けて、『キャリア・ノート』を計画的に活用している」という箇所を「主体的な進路選択に向けて、『キャリア・ノート』を定期的（月1回程度）活用している」と具体的に変更されているが、月1回というのはどのような点検、利用の方法を想定しているのか教えてほしい。

◆事務局

道徳教育において、キャリア・ノートを釧路市教委では早くに整えているのだが、上手に使えていない現状が学校間であるのかなと思う。道徳の時間、キャリア教育に関わる時間も含めて振り返る一つの手立てとして、例えば、道徳なり特別活動が週1時間ずつという年間計画があり、キャリア教育に関わる部分が月に8時間ある中では、きっとキャリア・ノートを使う時間が設定されているだろうと予想されるが、それを「計画的」としてしまうと、使うのが当たり前ではなく特別なことになってしまうと考えたため、キャリア・ノートを使う習慣付けをしてほしいという想いで位置付けたい。

◇委員

12 頁の変更内容の「英語力を育成し」を「英語力を涵養し」というのが一瞬どうなのかと思い調べたら、「水が染み入るようにじっくり養成される」という意味合いがあったので悪くないのかなと思ったのだが、流れからいうと「英語力を身に付けさせ」くらいで良いのではないか。ただ、このあたりは文言のことなのでお任せする。

◆事務局

12 月議会議論を受けて修正を行った 4 点の部分について、皆さまから内容についてご意見をいただければと思う。

□委員長)

◎ ICT等を活用した学びの推進と情報活用能力の育成（P11） 現状と課題 文言修正

「児童生徒における情報活用能力の育成を踏まえ」

→「デジタル・シティズンシップ教育の考え方のもと、児童生徒における情報活用能力の育成に向けて」

⇒⇒ 各委員から意見・質問等なし。

◎ 「特別の教科 道徳」を要とした道徳教育の推進（P16） 現状と課題 文言追加

「多様性（diversity）を尊重し」

→「LGBTQ等の性の多様性をはじめ、他者が有するそれぞれの多様性（diversity）を理解・尊重し」

⇒⇒ 各委員から意見・質問等なし。

◎ 「多様な体験活動の推進」（P18） 施策項目の追加

地域資源を生かした「ふるさと釧路」を学ぶ取組の推進

◇委員

今お話のあった、18Pの「地域資源を生かした『ふるさと釧路』を学ぶ取組の推進」の施策の具体的な取組内容が、「釧路市郷土読本『くしろ』等の活用も含めた」とあるのだが、「釧路市郷土読本『くしろ』」の下欄注釈を見ると、教科書と併せて活用しているとあり、釧路市教委としてはかなり深い活用を求めているものと思った。となると、「活用も含めた地域に関する学習の充実を図る」では、活用の度合いが弱くなるように感じる。他の施策を見ると「含めた」という表現があまりなく、もし「含めた」とするのであれば「含めた～の方法で実施することにより向上に努めます。」というような部分が他の頁ではある。「含めた充実を図る」だと、さらっと釧路読本を終わらせるという印象を持つ。

◆事務局

この郷土読本くしろの対象が、主に小学校3、4年生であり、その後の5、6年生、中学生においても使うこともあるというもの。とても力を入れて作っているものではあるが、限定的な部分もあり、そのように表現したところはあった。

◇委員

そのようなことであればいいと思う。

「いじめ防止等への取組の推進」(P20)

現状と課題 文面追加

→また、LGBTQ等の「性的マイノリティ」や「多様な背景をもつ児童生徒」など、学校として特に配慮が必要な子どもたちについては、その心情等に十分配慮した適切な支援を行うとともに、保護者との連携や周囲の子どもたちに対する指導を組織的に行うことが求められています。

成果指標項目2つ目 下線部文言追加

「いじめの未然防止、早期発見、早期対応に係る生徒指導研修を年1回以上実施している小・中学校の割合」

⇒⇒ 各委員から意見・質問等なし。

議会で頂いた以上4点のご意見につきましての修正箇所については、この委員会としては、この方向でよろしいということにしたい。

⇒⇒ その他、各委員からの意見・質問等がなく、資料1の「最終案」の内容で今後手続を進めることについて了承が得られた。

(2) その他

○事務局より、今後のスケジュールについて説明。(資料1の44ページ参照)

3. 教育長挨拶

- ・本日の第4回の委員会をはじめ、各委員には、都度、様々な意見や提案、提言を頂戴した。心から厚く御礼を申し上げたい。
- ・この教育推進基本計画と併せ、社会教育推進計画という生涯学習部系の計画も同時に策定作業を進めている。その双方に、両計画が何を進めようとしているのかわかるよう一言で表せないかと副題の設定をお願いし、具体的に、今回初めて「～子どもたちの生きる力を育むために～」とサブタイトルを設定した内容となっている。
- ・4月になると、この計画が具体的に動き始める。各委員お一人お一人が、この計画の産みの親であり、今後の5年間でどのように進んでいくか見届けていただければと思う。

4. 閉会